

各関係機関団体の長
各病虫害防除員

} 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和8年度病虫害発生予察技術情報第4号について(送付)

このことについて、病虫害発生予察技術情報第4号(海外飛来性害虫の発生状況)を発表したので送付します。

技術情報第4号

1 対象作物: 水稻

2 病虫害名: 海外飛来性害虫(セジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガ)

3 飛来状況

- (1) 県内予察灯(5か所)の5月1日から6月30日までの調査では、セジロウンカの誘殺が複数回確認された(表1)。また、6月5半旬にトビイロウンカの誘殺が確認された。なお、早期水稻調査地点では、既にセジロウンカの定着が確認されている。
- (2) 予察灯でのコブノメイガは確認されていないが、フェロモントラップにおいて誘殺を確認した(データ略)。
- (3) 「JPP-NET」の下層ジェット気流データ及び近隣県の誘殺状況を参考に、海外飛来性害虫の飛来日を6月21日と推定し、トビイロウンカおよびコブノメイガの発生予測パターンを作成した(図1、図2)。なお、以降の飛来波が確認された際は、上記の条件を参考に追加作成予定である。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の飛来状況やほ場での発生状況については、病虫害防除所が発表する病虫害発生予察情報や、ホームページで随時更新される予察灯における誘殺数、巡回調査における発生推移等の情報を活用する。
- (2) トビイロウンカは、田植時期や地域及びほ場毎の発生の差が大きい。また、育苗箱施薬剤を施用したほ場でも、田植後1か月以上経過すると農薬の効果の低下に伴い増殖しやすくなるので、発生予測パターン図を参考に、ほ場における発生状況を把握し、発生が多い場合は幼虫期に防除を行う。

<要防除水準: 幼虫の合計数>

飛来後第1世代: 20頭/100株

飛来後第2世代: 100頭/100株

- (3) 無人航空機による防除は、気温が高い時間帯に実施すると、薬剤の種類によってはイネの株元に到達する前に気化し、防除効果が著しく低下する場合がある。そのため、気温が上昇する前の早朝に実施する。
- (4) 防除に当たっては、農薬使用基準(使用時期、使用回数等)を順守する。

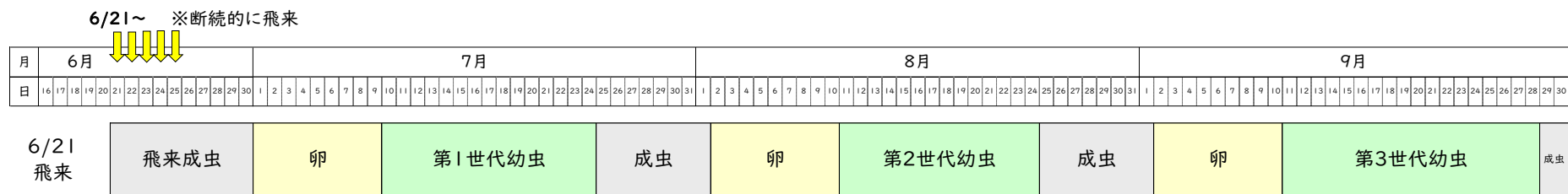


図1 飛来に基づくトビロウソク発生予測パターン（2026年7月13日作成）

（注）

- （1）発育零点12.0℃、発育上限温度28.5℃、発育停止温度33.0℃、
有効積算温度（成虫期間100.0℃、卵期間109.4℃、幼虫期間189.4℃）
- （2）成長予測は福岡管区気象台の協力を得た気温データ利用手法を用いて作成した。
- （3）気温はアメダス大宰府を使用した。
※7月12日までの気温は実測値、以降は日有効積算温度の平均値（1991～2020年）を使用した。

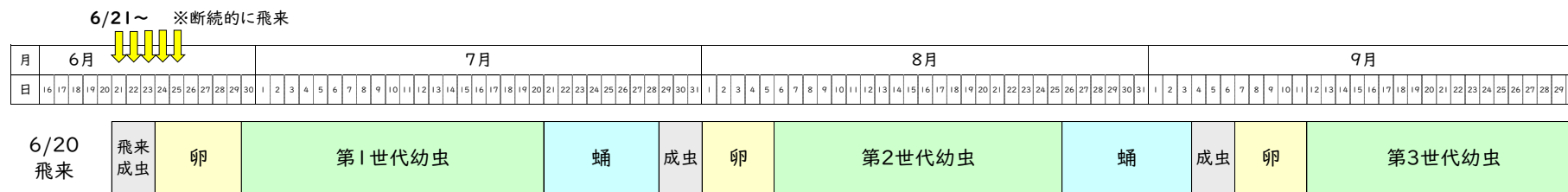


図2 飛来に基づくコブノメイガ発生予測パターン（2026年7月13日作成）

（注）

（1）防除適期は発蛾最盛期から1週間後である。

※発育零点（卵13.0℃、幼虫12.5℃、蛹14.2℃）、発育上限温度28.5℃、発育停止温度33.0℃、
有効積算温度（卵50℃、幼虫250.0℃、蛹90.0℃）

（2）成長予測は福岡管区気象台の協力を得た気温データ利用手法を用いて作成した。

（3）気温はアメダス大宰府を使用した。

※7月12日までの気温は実測値、以降は日有効積算温度の平均値（1991～2020年）を使用した。

病虫害防除所のホームページでは、各種病虫害の発生状況を随時更新しています。

○福岡県病虫害防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/fukuoka-bouzyosyo.html>

または右QRコード①

①⇒



○X（旧Twitter）で定期情報や警報等発出のお知らせを始めました。

Xの本アカウント（福岡県農作物病虫害情報）へのアクセス

URL: https://x.com/PPDPO_Fukuoka

または右QRコード②

②⇒

